

わたしが一番ほしかったもの

中部小・4 川上 アケミ

「お母さんのおなかに赤ちゃんがきますように。」

去年の七夕で短冊にそう書きました。二つ下の弟がいますが、弟が生まれたときは、わたしも小さかったのでだっこできませんでした。なので、大きくなったら赤ちゃんの世話をしてみたいとずっと思っていました。

数か月後、わたしの誕生日がきました。ハッピーバースデーの歌を歌った後に、お母さんがプレゼントを持ってきました。プレゼントのふたに手紙がありました。その手紙には、「神様が、七夕の願い事をかなえてくれたよ。」と書いてありました。みんなが、

「どんな願い事をしたの」

と聞いてきました。

「赤ちゃんがほしいとたのんだよ。」

と言いました。みんなもわたしも、まさかと思って箱を開けると、ふたの中に、二本の赤い線が引いてあるにんしんけんさ薬が入っていました。ほかに、かわいくつとミッフィーの赤ちゃんのおもちゃと、おなかの中にいる赤ちゃんの写真が入っていました。わたしはそれを見て、泣きそうになってお母さんにハグしました。

赤ちゃんのことを知ったわたしは、毎日お母さんのおなかと話をしました。早く生まれてほしいなと思いながら、たくさん話をしました。日がたつごとに、お母さんのおなかがどんどん大きくなって

いきました。赤ちゃんがおなかの中で、どんどん大きくなっているようにこだなとうれしい気持ちと早くお世話したい気持ちでいっぱいでした。

予定日になりました。その日がすぎてもなかなか生まれません。まだかなとどきどきしていました。一週間後の夜七時。お母さんのおなかがいなくなりはじめました。お父さんがいなかったのも、わたしがいたみの間かくをはかりながら、みんなでお父さんの帰りを待っていました。帰ってきたお父さんがいそいで着がえて、病院にむかいました。わたしは、しんばいしながら家で待っていました。ねれずに待っていると、お父さんが帰ってきて、

「生まれたよ。」

と言って写真をたくさん見せてくれました。わたしは、うれしい気持ちでいっぱいになりました。

次の日、お母さんと赤ちゃんがいる病院に行きました。ついに赤ちゃんに会える時がきました。お母さんの部屋をガラガラと開けると、そこにはかわいいわたしの妹がいました。はじめてだっこしたとき、感動でむねがいっぱいになりました。

「この子の名前はアリサだよ。」

と、お母さんが教えてくれました。わたしはこのかわいい妹のお姉ちゃんとしてがんばっていいこうと決意しました。

五日後、お母さんと妹のアリサが帰ってきました。帰ってきたときわたしが生まれたときに着ていた服とくつを身につけていました。最初見たときは、とてもびっくりしました。自分の生まれたときの写真と見くらべてみると、そっくりで、大きくなったらどうなるのだろうと楽しみになりました。

そこから毎日、着がえやミルク、おむつがえなどお母さんのお手伝いをしています。やってみると思っていたよりもむずかしくて、うまくいかないことや失敗することもあります。お母さんになるってむずかしいなと思うながら、毎日ががんばってお世話をしています。どんなに大変でも、妹の顔を見ると、

「今日もがんばろう。」

と元気が出ます。神様が七夕の日に願いをかなえてくれたことに感謝しながら、妹にとってやさしいお姉さんになれるようがんばっています。